

SHIKISHIMA

AREA

GRAND DESIGN

敷島エリア
グランドデザイン

群馬県・前橋市

概要版



基本構想

敷島ウェルパークにむけて
敷島公園を訪れるすべての人々の
健やかな体験と時間を約束する場とし、
持続可能な地域の魅力を創造します。

将来像

自然風景と行き交う人々の日常を感じながら歩く、
訪れるだけで誰もが元気になる場

コンセプト

公園の概念を超えた超公園

SHIKISHIMA
WELL-PARK

敷島ウェルパーク

まちのウェルネス拠点、敷島ウェルパーク。
自然を感じ、生活者を感じ、
今を生きることに感謝できる場所。
訪れる全ての人々の健やかな
体験と時間を約束する、
世代を超えて愛される暮らしと公園が
優しくつながる新たなまちづくり。

訪れるだけで、こころが
満たされワクワクする
環境デザイン

誰かと出会い
対話が生まれる
交流拠点機能

世代を超えた
共感共鳴を生み出す
感動体験の創出

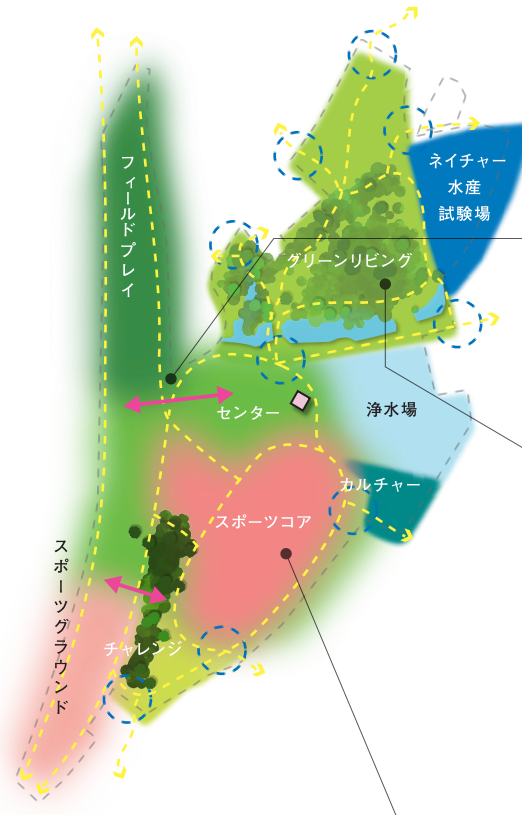


歴史と伝統に培われた自然豊かな敷島公園で、
園内の各種施設を結びつけ、にぎわいと
健やかな体験、世代を超えたコミュニケーションが
生まれる新しい交流拠点を構築します。
誰にもひらかれ、こころも体も満たされ、
多様な幸せと慈しむ心を感じられる場。新しい時代の
豊かさの象徴として、地域への愛着や誇りを育み、次の世代に
継承し、進化し続けることを願い、ここに憲章を定めます。

- 1 訪れる人が地域とつながる
スポーツと交流の場をつくる
公園を訪れる多様な人々が、
地域の自然や文化に触れ、
世代を超えた交流が生まれる
拠点を包括的に育てていきます。
- 2 こころも身体も元気になれる
ひらかれた共創の場をつくる
誰ひとり取り残されることなく、
心身共に健康になれる場を
多様な立場の人々と共に
生み出していきます。
- 3 地域への愛着や誇りを育み
暮らしの価値向上をめざす
地域を思い、主体的に参加する
ことで、愛着や誇りが生まれ、
活力あふれるまちの暮らしや、
新しい価値が形成されていきます。
- 4 利根川に接し、赤城、榛名を望む
敷島の風致を次の世代に継承する
先代から受け継いだ、利根川の
松林や雄大な山々の景観を守り、
次の世代へと大切に受け継いで
いきます。
- 5 いのちの源として緑と水源を
慈しみ未来へ持続させていく
古くから地域の資産である
いのちの源を慈しみ、
美しい水と緑の豊かな自然を
次世代へと継承します。
- 6 環境を活かし潤いにつつまれた
まちのシンボルを育む
豊かな自然環境に恵まれた
スポーツの聖地は、世代を超えた
まちのシンボルとして長く
愛されていきます。

- ・「スポーツ施設の再配置等」による
オープンスペースの確保と交流の場の創出
- ・回遊動線確保による「エリアの一体性強化」
- ・敷島固有の「環境の継承」と
「シンボルの魅力向上」

	ゾーン	概要
多目的緑地	グリーンリビング	松林や水辺等、子どもから大人までゆっくり過ごせるエリア
	センター	多様な人々が自由な活動や交流を深める出会いの場としてのオープンスペースや公共交通の結節点【GunMaaSのモビリティハブ】として、公園の核を担うエリア
	チャレンジ	市民や地元企業が中心となって新しいチャレンジができるエリア
	フィールドプレイ	キャンプをはじめとするアウトドア等、誰もが屋外でのびのびとアクティブな遊びができるエリア
競技施設	スポーツコア	スポーツの機能を維持しながら、スポーツ施設の再配置等を行う、スポーツの機能(聖地)を継承するエリア
	スポーツグラウンド	河川敷を有効活用し、スポーツ機能を配置すると共に、市民が気軽にスポーツを楽しめるエリア
浄水場	カルチャー	国指定登録有形文化財の旧配水塔の魅力を発信するなど、歴史・文化遺産を保全・継承、体感できるエリア
試験場	水産 ネイチャー	群馬県の水産(主に川魚)に加え、生態系、生物多様性及び環境問題等を研究・発信するエリア



凡例

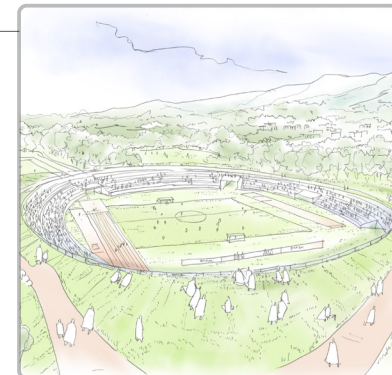
- エントランス
- エリア内動線
- 保全緑地
- 緑地
- 公園と河川敷の一体化
- 既存池
- 交流センター



園路等により
河川敷と公園の
一体化と
回遊性の向上



敷島の自然を
活かした活動
(松林)



競技場周辺に
オープン
スペースと
賑わいを創出

デザイン
コード

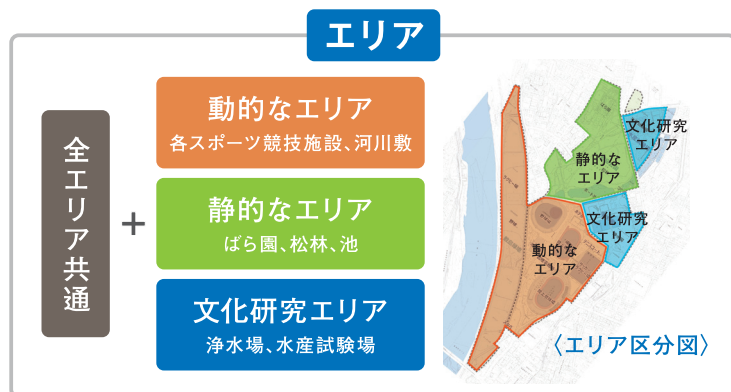
訪れる人が利用・活動したくなる機能を重視した他に類を見ない敷島独自の「不変の方針」としてデザインコードを規定

人を中心とし「アクセシビリティ」「回遊性」「多機能性」「コミュニティ」等の観点を重視

デザイン
ルール

不変の方針であるデザインコードに基づき、社会情勢等の変化に適応して変更可能なものとしてデザインルールを規定

デザインコードは、以下の3つのエリアと3つの分野で分類



デザインコード、デザインルールの一部抜粋
【全エリア共通ー建築】

【建築】デザインコード

アクセシビリティ

多様な人々が利用できるようにする。

安全性

防災面、防犯面で安心安全に使用できるようにする。

環境効率

環境に配慮し、エネルギー効率の優れたものにする。

デザインルール

- ユニバーサルデザインに基づき、多様な人々が利用しやすいものとする。
- 施設の正面入口は園路から容易にアクセス可能な位置とする。

- 電源確保(自家発電、太陽光、蓄電池など)・食料備蓄など災害時の備えを行う。
- 耐震性能を満たす施設を設置し、災害時(洪水時は除く)は避難所として利用可能なものとする。
- 災害時の飲料水について、備蓄分を超えると想定される場合は、浄水場と連携を図る。
- 利用者の動線から見通しが確保された施設構造とする。
- 防犯性能に優れた施設設計を行う。

- 資材は地域資源を可能な限り活用する。
- 自然エネルギーの利活用が可能な施設とする。
- 雨水を有効に活用する。
- 整備時点で求められる最先端の省エネルギー性能を備える。
- 半屋外空間を設け、エネルギー効率に配慮する。